

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 少なくとも12月13日発生は否定 前兆終息を確認し推定

CH17特異=11日昼前に終息・CH20特異=12日昼過ぎに終息 12月12日夕刻現在出現前兆=CH21弱い特異のみ

2008年07月より実に7年5ヶ月と云う観測歴上最長継続前兆群で複数極大を有する特殊形態前兆群であるNo.1778の現況続報です。

現在第11ステージ認識です。第11ステージは12月09日極大認識で、初現の位置によって推定される日が異なることになるため、実際の前兆終息を確認して、第11ステージが示す日を特定することが求められています。

前回の情報で、最も早い場合は、初現=12/7、極大=12/9と認識した場合で、終息予測=12/12 推定される日=12/13±と云う関係が示唆されていました。本日12月12日現在、表題のとおり、24時間継続の糸状特異が出現していたCH17は昨日11日昼前に終息し、現在まで正常基線を記録中。CH29BTは明け方のみ。CH20の弱い特異も本日12日昼過ぎに終息し、現在正常基線を記録中。CH21の弱い特異のみが出現しています。(CH4に微弱な直接波近似変動も有)

12月09日極大認識で、本日12月12日夕刻現在前兆が継続していることから、少なくとも12月13日発生の可能性は否定できます。

7年5ヶ月もの長い間、継続出現していた前兆が11月27日～29日の間に数時間も完全消滅し、全ての観測装置が綺麗な正常静穏基線を記録したことから、長期に及ぶNo.1778前兆も最終段階である可能性が示唆されます。

12月09日極大認識は正しい筈です。12月09.5日(昼)極大として、あくまでも12月07日が初現とした場合は、12月13日終息予測で12月14日を示すことになります。誤差も考慮し、12月13～14日終息予測で、12月14～15日を示す可能性は、まだ否定で

※第09ステージ以降は、極大(ピーク)が一つづつしかありません。従って、Tmapが数ヶ月に及ぶ可能性は考え難く、短い可能性が示唆されます。実際の終息を確認することが重要です。過去例に無い前兆形態のため、非常に難解で、現状様々な可能性を検討しております。不甲斐ない状態をお詫び申し上げます。申し訳ございません。

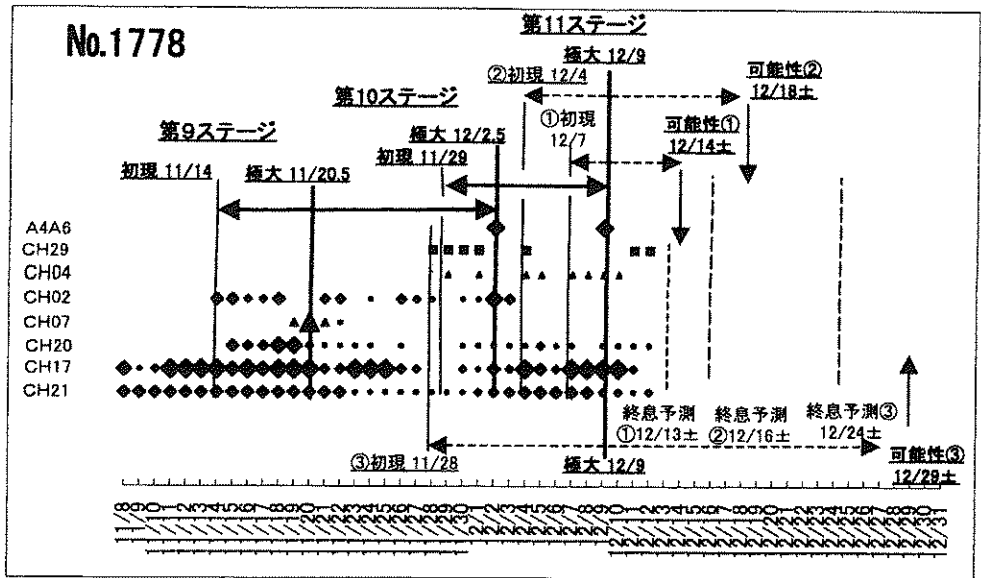


Table with 3 columns: 可能性 (Possibility), 推定日 (Estimated Date), and 終息予測 (End Prediction). It lists three scenarios for the initial appearance date and their corresponding maximum and end dates.

きませんので、可能性①として残してあります。その他に可能性が考えられるのは、上図及び上記のとおり、初現が12/4の可能性、この場合は、終息予測=12/16±で、12/18±を示すこととなります。更に少々考え難いですが、CH29短時間BTの再出現から、11/28を初現とした、可能性③も考えてみました。これ以外に、12/11から再出現したCH29BTを初現として、上記の推定日に極大が出現する可能性も否定はできません。最終段階認識ですが、実際の前兆終息の確認と、今後のピーク出現の有無を観測し、続報でご報告したいと考えます。

- ◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域 斜線領域=可能性が考え易い推定領域 ※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 可能性①12月13日に終息した場合=12月14日± 可能性②12月16日に終息した場合=12月18日± 可能性③12月24日に終息した場合=12月29日± (その他の可能性も有、実際の終息を含む変化を観測し推定)
- ◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前09時±1 (又は午後06時±3)

